

Nutanix.NCP-MCI-6.10.v2026-06-15.q88

試験コード:	NCP-MCI-6.10
試験名称:	Nutanix Certified Professional - Multicloud Infrastructure (NCP-MCI v6.10)
認定資格:	Nutanix
無料問題数:	88
バージョン:	v2026-06-15
アクセス数:	106
ページビュー数:	880
https://www.jpnpdf.com/Nutanix.NCP-MCI-6.10.v2026-06-15.q88-mondaishu.html	

最新問題: 1

管理者は、Scale-Out Prism Centralクラスタで転送中データの暗号化を有効にし、ノード間のサービスレベルトラフィックを暗号化しようとした。しかし、ファイアウォールの制限により、この機能は正常に動作しませんでした。

転送中のデータの暗号化のためにファイアウォールを通過できるようにする必要がある CVM 固有のポートはどれですか？

A. 9440

B. 2009

C. 2010

D. 2020

Answer: D ([メッセージを残す](#))

最新問題: 2

管理者は、新規登録したAHVクラスタのベースラインキャパシティランウェイを計算する必要があります。クラスタは16日間稼働していますが、ランウェイ予測が表示されません。キャパシティランウェイ予測が表示されないのはなぜですか？

A. キャパシティ プランニングには少なくとも 30 日分のデータが必要です。

B. キャパシティ プランニングには少なくとも 6 か月分のデータが必要です。

C. キャパシティ プランニングには少なくとも 3 か月分のデータが必要です。

D. キャパシティ プランニングには少なくとも 21 日分のデータが必要です。

Answer: A ([メッセージを残す](#))

Prism CentralのCapacity Runway分析は、過去の使用状況データに基づいて将来の予測を生成します。Nutanixのドキュメントには以下のように記載されています。

容量ランウェイ予測には、成長率のベースラインと傾向モデルを構築するために、少なくとも 30 日間の使用率履歴データが必要です

最新問題: 3

別紙参照:



管理者は、Prism Central から LCM に移動するときに、図に示されているメッセージに気付きます。
LCM を最新バージョンに更新するには、管理者はどのようなアクションを実行する必要がありますか？

- A. AOS アップグレードを実行します。
- B. AHV アップグレードを実行します。
- C. インベントリスキャンを実行します。
- D. CVM から最新の LCM バージョンをダウンロードしてインストールします。

Answer: C (メッセージを残す)

Life Cycle Manager (LCM) によって新しいフレームワーク バージョンが利用可能であると報告された場合、正しいアクションはインベントリ スキャンを実行することです (オプション C)。
インベントリ スキャンを実行すると、利用可能なファームウェア/ソフトウェア バージョンが更新され、LCM が必要な更新をダウンロードできるようになります。
オプション A (AOS アップグレードの実行) は、LCM フレームワークの更新プロセスとは無関係です。
オプション B (AHV アップグレードの実行) は個別のコンポーネント更新であり、LCM フレームワークには影響しません。
LCM 更新はインベントリ スキャン後に自動的に取得されるため、オプション D (CVM から手動でダウンロード) は必要ありません。

参考文献:

Nutanix LCM

* オプションDは不正解です。

* Nutanix VM テンプレートは、ESXi ではなく AHV でネイティブにサポートされます。

参考文献:

* Nutanix VM管理ガイド#VMテンプレートの作成と管理

* Nutanix KB#VM テンプレートのストレージ要件

最新問題: 5

管理者は、セキュリティを強化するために、CVM 上の nutanix ユーザーに対してパスワードベースの SSH アクセスを無効にしたいと考えています。

管理者はどのようなアクションを取る必要がありますか？

A. nutanix ユーザーの名前を変更します。

B. CVM ファイアウォールのブロックポート 22。

C. クラスターのロックダウンを有効にします。

D. nutanix ユーザーを削除します。

Answer: ([解答を表示する](#))

Nutanix で Cluster Lockdown」を有効にすることは、パスワードベースの SSH ログインを防ぐための最善のセキュリティ対策です。

* オプション C (クラスター ロックダウンを有効にする) が正解です。

* Cluster Lockdown はパスワードベースの SSH を無効にし、キーベースの認証を要求します。

- * 可能な限り低い RPO が必要です (RPO # 0)
- * クラスタ障害を乗り越える必要がある

Nutanix のデータ保護ドキュメントには次のように明記されています。

同期レプリケーションは、すべての書き込みが確認応答前に両方のサイトでコミットされることを保証することで、RPOゼロを実現します。」さらに、

ボリューム グループを使用してアプリケーション VM を保護する場合、書き込み順序の忠実性を確保し、フェイルオーバー中にデータベースまたはアプリケーションの整合性を維持するために、VM とボリューム グループの両方を同じ整合性グループに配置する必要があります。」これは非常に重要です。ボリューム グループはブロック レイヤーで動作し、それらを別々のグループに配置するとアトミック書き込み順序の正確性が損なわれるためです。

オプション分析:

A)。Metro AHV は HA スタイルのゼロ RPO を提供しますが、質問では特に保護ポリシーと VG について言及しており、Metro ではこれらを同じようには調整しないため、ここで必要なメカニズムではありません。

B)。VM と VG が同じ整合性グループ内でない場合、同期レプリケーションだけでは不十分です。

C) これは正しい完全なソリューションです。同期レプリケーション + 一貫性グループ化により、RPO0 とアトミック更新が保証されます。

D)。NearSync の RPO は 1 ~ 15 分であり、可能な限り低い RPO ではありません。

したがって、同期レプリケーションの下で、VM と VG の両方を同じ整合性グループに配置するのが正しい方法です。

最新問題: 7

Nutanix ストレ

Nutanix ストレージで使用するデフォルトのファイル システムは何ですか？

- A. NTFS
- B. EXT4
- C. NDFS (Nutanix 分散ファイルシステム)
- D. XFS

Answer: C ([メッセージを残す](#))

最新問題: 10

管理者は、2台のMicrosoft Windows VM間でストレージパフォーマンステストを実行しています。1台目のVMIはテンプレートを使用してデプロイされ、2台目のVMIは新規に作成されました。

結果は、同じパフォーマンステストを使用しても、VMIによって指標が大きく異なることを示しています。最初のVMIは8000 IOPSに到達しますが、2番目のVMIは500/800 IOPSに到達するのに苦労しています。現在、AHVクラスターは負荷がかかっていません。

管理者はこれらの結果が生成された理由をどのように判断できるでしょうか？

- A. 2 番目の VM で AHV Turbo を有効にします。
- B. VMIに割り当てられたVCPUの数を確認する
- C. 両方の VM に Nutanix ゲスト ツールがインストールされていることを確認します。
- D. VM 間の vDisk バス タイプを比較します。

Answer: ([解答を表示する](#))

最新問題: 11

管理者は Prism で次の内容の警告を受け取ります:

「クラスター <cluster_name> 上のストレージ コンテナ <container_name> のストレージ リソースは約 1 日で不足します。」ただし、クラスターには使用可能なスペース

D. データ階層化

Answer: B ([メッセージを残す](#))

最新問題: 13

管理者はホストのファームウェアアップグレードを準備しており、LCMアップグレードを実行する前にVMを手動で移行したいと考えています。しかし、1台のVMは移行できませんが、他のVMは正常に移行できます。どのようなアクションで問題を解決できますか？

- A. クラスタ レベルで Acropolis Dynamic Scheduling (ADS) を有効にします。
- B. リンク層検出プロトコル (LLDP) を更新します。
- C. VM 構成オプション内で Agent VM を無効にします。
- D. CVM に割り当てられているバックプレーン ポート グループを構成します。

Answer: ([解答を表示する](#))

VM を移行できない場合、最も可能性の高い原因は、それがエージェント VM (Nutanix Witness VM や特別な依存関係を持つ VM など) であることです。

- * オプション C (エージェント VM を無効にする) が正解です。
- * 一部のエージェント VM は、重要な役割 (例: Metro Availability の Witness VM) により移行を防止するように構成されています。
- * エージェント VM の制限を無効にすると、ホストがメンテナンス モードに入る前に移行できるようになります。
- * オプションA ADSを有効にする)は誤りです。
- * Acropolis Dynamic Scheduling (ADS) は移行後の VM の配置に役立ちますが、移行できない VM を強制的に移動させることはありません。
- * オプション B (LLDP の更新) は正しくありません。
- * LLDP はネットワーク検出に使用されますが、VM の移行動作には影響しません。
- * オプション D (バックプレーン ポート グループの構成) が正しくありません。
- * バックプレーン設定は、VM の移行ではなく、CVM 通信に影響します。

